

「頭の中を POS に」特別編

服薬ケア研究会は、会員の会費と、勉強会の参加費のみで運営されている非営利団体です。

皆さん、服薬指導に自信はありますか？ あなたが書いている薬歴、その内容に自信はありますか？ これらの間に自信を持って「はい」といえる薬剤師は、意外に少ないのではないかと思います。この「頭の中を POS に」のワークは、そのような薬剤師の患者応対を数段レベルアップさせる、大変ためになる演習です。ワークでは、模擬患者を一人おき、模擬症例を元にして、実際の服薬指導をその場で本当に患者役とやり取りしながら組み立てて行きます。そのときに、考え方の道筋を定めた「服薬ケアステップ」という方法論に沿って、「どのように服薬指導を組み立てていけば良いのか」を皆で学んでいきます。薬学的な注意点から、コミュニケーションの技術に関するここまで、すべてを学べる薬剤師としての実力を総合的に高める演習です。用いる症例は毎回新しいものを用意しますので、同じものは一つもありません。何度も参加すると、疾患別の服薬指導の要点も、知らずに身に付いています。とにかく、誰もが一度は参加して欲しいワークです。皆様のご参加をお待ちしております。

>>> 服薬ケア研究会 第52回例会開催要項 <<<

(日本薬剤師会研修センター認定研修 3単位)

* 日時: 平成26年3月21日(祝) 10:00~16:00

* 場所: 熊本市国際交流会館 4F 第1会議室

(〒860-0806 熊本中央区花畠町4番18号 電話: 096-359-2020)

* 内容: 「頭の中を POS に」ワーク特別編 (症例#20)

模擬症例を用いて患者役の方と実際に応対をしながら「どのように応対するのがよいのか」を学んでいくワークです。

実際には3~5分程度で終わってしまう患者さんとのやりとりを3時間以上かけてじっくりとディスカッションしながら組み立てていきます。

* タイムスケジュール: 10:00~11:00 講義「服薬指導の組み立て方」

(予定) 11:00~16:00 全体ワーク「頭の中を POS に」演習 ※途中昼休みを挟みます

* 講師: 服薬ケア研究会会頭 岡村 祐聰先生

* 参加費: 一般 会員 4,000 円 非会員 6,000 円

* 参加人数: ワーク席 10名 オブザーバー席 35名 先着順(入金をもって正式に受付とします)

ワーク席参加者は応対する薬剤師役となり、最適なケアを組み立てる思考訓練が出来ます。

オブザーバー席はワークの様子を見学する形になります。

お問合せは返信先を明記の上 FAX にて 03-6368-6058 まで。

参加申し込みは下記の必要事項を記入の上、服薬ケア研究会 Fax: 03-6368-6058 まで送信下さい。

又、メールでのお申し込みは fukuyakucare-jimukyoku@yahoo.co.jp まで、下記事項を記入してお送りください。

折り返し入金方法や会場へのアクセスをご案内しますので、返信先(Fax またはメールアドレス)を必ずお書き下さい。

また入会希望の方は「服薬ケア研究会」HP (URL: <http://www.fukuyaku.net/>) をご覧下さい。

FAX 送信先 : 03-6368-6058

.....<3/21 第52回例会に参加します>.....

ふりがな

○氏名: _____ ○メールアドレス: _____

○住所: (自宅・勤務先) 〒 _____

○電話: (自宅・勤務先) _____ ○FAX: (自宅・勤務先) _____

○勤務先 _____ ○職種 _____ ○服薬ケア研究会会員?: はい(会員番号:) いいえ

○参加希望席: ワーク席 · オブザーバー席 (○が無い場合はこちらで指定させていただきます)

○同時入会を希望しますか? はい · いいえ

頭の中を POS に！（特別編）とはどんなワーク？

すべての薬剤師に必ず学んでいただきたい
大変学習効果の高い演習です！

この頭の中を POS に！（特別編）のワークは、岡村先生のご著書「薬局薬剤師の患者応対」(p78～83),「患者応対技術の実践法」(p32)などに紹介されているワークで、薬剤師の実力をつけるための総合演習として最適なワークです。このワークに20回から30回参加すれば、薬剤師として一流の思考力と患者応対力を身に付けることができます。現在現役で活躍するすべての薬剤師の方にご参加いただきたい演習であると考えています。現在、服薬ケア研究会がこのワークの研修会を全国各地で開催しておりますが、用いる症例は毎回新たに作っておりますので、同じものは一つもありません。何度も参加されても勉強になります。何度もご参加いただきたいと思います。薬学部6年制の実務実習指導薬剤師の実力アップにも最適です。

このワークでは、模擬症例を用いて患者役の方と実際に応対をしながら、「どのように患者応対を組み立てていくのか」を学びます。実際には3～5分程度で終わってしまう患者さんとのやり取りを、3時間以上かけてじっくりとディスカッションしながら、組み立てていくのです。特にこの「特別編」では、岡村先生が直接チューターを務めてくださいますので、「服薬ケアステップ」(患者応対を効果的に進めていくための方法論)を、まさに実践ながらに学ぶことができます。

このとき、ワーク席の参加者は応対する薬剤師役となり、チューターとやり取りしながらプロブレムを探し、最適なケアを考察して行きます。ワーク席の参加者は、自ら意見を述べたり、チューターより発言を求められたりします。したがって、自分自身で実際に症例に取り組み、最適なケアを組み立てる思考訓練を行いたい場合には、ワーク席をご希望下さい。

オブザーバー席の参加者は、基本的にはワーク席の参加者がケアを組み立てていく様子を周りで見学する形になります。チューターから指名され、発言を求められることはありません。講師が適宜必要な解説をはさんでいきますので、目の前のやり取りを聞きながら、落ち着いて「どのように考えれば良いのか」を学ぶことができます。そのため、指されることにより緊張することなく、しっかりと考え方を学ぶことができます。さらにオブザーバー席の方は、チューターより指されることはありませんが、自分で意見を述べたいときには拳手して意見を述べることができます。したがって、ワークの流れに自分の意志で参加することは可能ですので、ただ単に「見ているだけ」ではありません。そういう意味で緊張しやすい人であったり、しっかりと学びたい人の場合は、ワーク席での参加よりも、オブザーバー席で参加した方が勉強になるという方もいるでしょう。

ワーク席の参加者は、ディスカッションに直接参加しながら交代で実際の患者応対も行います。患者応対の組み立てだけでなく、コミュニケーション技法を用いて、患者さんとのやり取りをその場で行いますので、「服薬ケアステップ」の考え方を学ぶだけでなく、「服薬ケアコミュニケーション」の実践練習を同時に行うことができます。

このように、ワーク席、オブザーバー席、どちらの参加でも、とても勉強になります。

なお、参加される方は、必ず自分が使い慣れた薬や病気に関する参考書などを持参してください。このワークは考え方を学ぶワークですので、知識があやふやでは思考を組み立てることができません。(主催者側では特に添付文書などは用意しませんので、必ずご自身でご持参下さい。)

